

ChatGPT 4o

共有する

Hi

**あなた:**

生成 AI×特許調査 第2弾（前編）.docx

ドキュメント

要約してください。

**ChatGPT:**

ChatGPT

この文書は、生成 AI を特許調査業務に活用するための手法について解説したものです。要約は以下の通りです。

#### 主な目的

1. 生成 AI の特許調査業務への活用可能性の検討と共有。
2. 生成 AI の活用効果を検証し、結果を共有。

#### 活用手法

1. **テキストをプロンプトにコピー**  
特許候補テキストを生成 AI に直接入力し、判定させる手法。
2. **ウェブスクレイピング**（次回紹介予定）
3. **エンベディ**（次回紹介予定）

#### 手順

1. **調査観点の設定**  
ドローン技術など具体的な観点を設定。
2. **請求項の判定**  
特許候補の請求項記載に基づいて、観点到該当するかを生成 AI に判定させる。
3. **プロンプト作成**
  - 目的、条件、調査観点、判定方法、出力形式を明確に記載。
  - 例：「ドローン技術に関連する請求項を判断し、根拠となる箇所を示す。」

#### 結果と考察

- **日本特許・米国特許**の候補を読み込み、判定可能。
- **注意点**：
  - 複雑な調査観点では精度が低下する可能性がある。
  - 生成 AI が事実に基づかない回答をしないよう、根拠を示す指示が必要。
  - テキスト量が多すぎるとシステムの制限にかかる。

#### 今後の改善

- 大量の特許調査には**ウェブスクレイピング**や**エンベディ**が有効と考えられる。

## 結論

生成 AI の活用にはプロンプト設計が重要であり、対話を重ねながら精度を向上させる必要がある。

この内容が特許調査業務の効率化に貢献することが期待されます。

4o

あなた:

出来るだけ本人の言葉、言い回しを活用して、ポイントを詳しくに要約してください。

ChatGPT:

ChatGPT

以下は、文書『生成 AI×特許調査 第2弾 (前編)』の内容を、本人の言葉や言い回しをできる限り活用しつつ、詳しくに要約したものです。

---

## 配信テーマの狙い

1. 生成 AI の特許調査業務への活用可能性を検討し、その知見を共有する。
  2. 生成 AI 活用の効果を検証し、その結果を共有する。
- 

## 今回の手法：テキストをプロンプトにコピー

特許候補のテキストを直接プロンプトに貼り付け、生成 AI で判定を行う。ウェブスクレイピングやエンベディについては次回以降に紹介予定。

---

## 活用手順と作業内容

1. 特許候補の読み込みと仕分け  
生成 AI を用いて、特許候補を読み、仕分ける業務を想定。
  2. 調査観点の設定  
あらかじめ調査観点を設定し、プロンプトに記載。
  3. 請求項記載での判断  
クリアランス調査や無効資料調査において、請求項の記載を基に生成 AI に判定させる。
- 

## プロンプトの構成

プロンプトは4つのパートに分けて構成。

1. 前提条件・目的  
例：「あなたは特許の専門家です。以下の日本特許の請求範囲を基に、指定された調査観点到該当するか判定してください。」
2. 調査観点  
ドローン技術の例：「画像情報を取得し、その画像に基づきドローンの駆動制御や位

置制御を行うもの。』

### 3. 判定方法

- 調査観点に該当すれば「該当」とし、請求項番号と根拠箇所を示す。
- 該当しない場合は「該当しない」と記載し、根拠の記載は不要。

### 4. 出力形式

- 表形式や文書形式を指定し、アウトプットのイメージを明確にする。
- 例：「該当する場合、請求項番号と該当部分を示す。」

---

## 実際の結果

- 日本特許・米国特許の候補に対し、生成 AI で判定を試みた。
- 結果の表示例：
  - 該当する場合：請求項番号と該当部分が表示される。
  - 該当しない場合：シンプルに「該当しない」と表示。
- 注意点：

生成 AI の回答は必ずしも正確とは限らないため、自分の目で内容を確認する作業が必要。

---

## 考察・課題

### 1. 調査観点による精度の低下

観点が複雑で条件分岐が多い場合、生成 AI が一部の観点や条件を見落とすことがある。

### 2. 記載根拠の重要性

生成 AI に根拠を示すよう指示することで、回答の信頼性を高める。

### 3. テキスト量の制限

- ツールやシステムによっては、入力テキスト量に制限がある。
- 大量の候補や長い請求項はうまく処理できないことがある。

### 4. 作業の煩雑さ

大量の特許調査（例：1000 件以上）では、テキストを 1 件ずつ貼り付ける作業が煩雑になる。

---

## 今後の展望

- ウェブスクレイピングやエンベディの活用が、効率化に有効と考えられる。
- 次回の動画でこれらの手法を紹介予定。

---

## ポイントの整理

### 1. プロンプトの明確化

目的、条件、出力形式を具体的に記載する。

**2. 生成 AI の指示工夫**

記載事実に基づいて判定するよう指示し、誤った回答を避ける。

**3. 対話と改善**

1 回のプロンプトでうまくいかないことが多いため、生成 AI との対話を重ね、プロンプトを改善する。

**4. 作業の記録**

プロンプトと回答を記録し、再利用可能な「プロンプト集」を作成することで効率化を図る。

---

この手法は、生成 AI を特許調査業務に活用する可能性を示しており、適切なプロンプト設計やシステム設定によって、効率的な調査が期待できる。

4o